

「庄内の美術家たち」は、地域に根差す芸術文化の動向をたどり、郷土ゆかりの作家を紹介する展覧会です。シリーズ第 21 回目となる今回は、出羽国飽海郡松山町（現、酒田市松山）出身のふたりの日本画家、斎藤墨湖（1772～ 1874）と田中静居（1835～ 1898）を紹介します。

斎藤墨湖は、明和 9／安永元（1772）年に松山藩御茶道役の斎藤清賀の子として生まれ、名を久作と言いました。五代藩主酒井忠禮（ただのり）の命で、谷文晁の高弟春木南湖に絵を習い、師の一字を受けて墨湖と号します。文化 11（1814）年 5 月には父の跡を継いで茶道役となり傳賀の名を貰い受けます。文化 13（1816）年、45 歳のときに茶道役を辞して松山に帰郷し、一時酒造業を営みますが廃業し、隠居後は画業に専念したと言われ、松山の旧名を用いて中山墨湖とも名乗りました。「鶏の墨湖」と呼ばれるほど鶏の画を得意とし、103 歳まで生きて死の直前まで絵筆を握り、明治 7（1874）年に松山の總光寺に葬られました。鶴岡の出羽三山神社には墨湖の描いた板戸絵が現在も残されています。

田中静居は、天保 6 年（1835）に生まれ、名を喜八郎と言いました。はじめに同郷の斎藤墨湖に絵を習い、のちに九州出身の京都の画家、中西耕石の門人となりました。全国を周遊し、伊藤鳳山や清川八郎らと交流し、荘内藩の池田駒城（こまき）にも画法を習ったとされています。静居も松山をはじめ余目や酒田、鶴岡の寺社に多くの絵を残しましたが、明治 31（1898）年 3 月 24 日に逝去し、同じく松山の總光寺に葬られました。

本展では、大幅五幅にもなる静居の大作「湯殿山縁起図」をはじめ、花鳥山水の幽境なる世界を描いた墨湖と静居の掛軸など約 60 点を紹介します。

観覧料

一 般	200 (160) 円
高大生	100 (80) 円
中学生以下	無料

※（ ）内は 20 名以上の団体料金です。
※障がい者手帳をお持ちの方は半額です。
1 名につき介助者 1 名は全額免除になります。



〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町13-3
TEL:0235-29-0260 (代表) FAX:0235-22-6051
E-mail : info@t-artforum.net URL : https://www.t-artforum.net



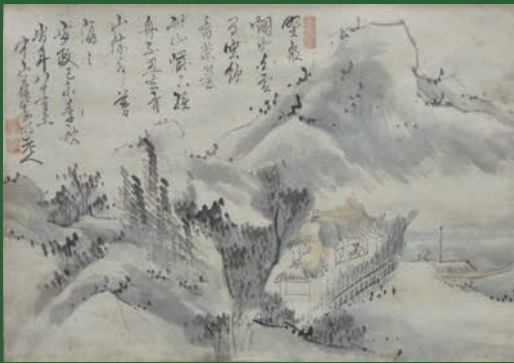
5



6



1



2



4



3

1. 斎藤墨湖《松と鶴／梅と鶴》文久元（1861）年 4 月／万延 2／文久元（1861）年、紙本着色・軸装・双福、酒田市文化資料館光丘文庫蔵／2. 斎藤墨湖《山水図》安政 6（1859）年秋、紙本着色・軸装・一幅、酒田市文化資料館光丘文庫蔵／3. 田中静居《達磨大師》紙本着色・軸装・一幅、酒田市松山文化伝承館蔵／4. 田中静居《湯殿山縁起図》絹本着色・軸装・五幅の一、大日坊蔵／5. 田中静居《春景山水図》紙本着色・軸装・一幅、酒田市松山文化伝承館蔵／6. 田中静居《虎之図》紙本着色・軸装・一幅、酒田市松山文化伝承館蔵

会期中のイベント

■ ギャラリートーク
・ 2/15 日 ・ 2/26 木 ・ 3/1 日

各回 14：00～（1 時間程度）
会場内を巡りながら展覧会と作品について解説します。
※参加料は無料ですが、観覧券が必要です。
お買い求めの上、会場入口にお集まりください。

同時開催

教育普及展覧会・保育園合同卒園展
みんなあつまれ！
つるおか こども美術館 2026
2 月 14 日（土）～2 月 23 日（月・祝）
休館日：2 月 16 日（月）
開場時間：9：00～17：30
※入場は 17：00 まで
会場：ギャラリー 1
観覧料：無料